

平成28年9月定例会 一般質問（概要）

平成28年10月6日

質問者：杉江 友介議員



〈杉江 議員〉

大阪維新の会大阪府議会議員団の杉江友介でございます。
本日、一般質問の機会を頂きましたので、順次質問させていただきます。

1 副首都・大阪 中長期的な取組み

〈杉江 議員〉

まず始めに、副首都推進本部会議で示された副首都・大阪 中長期的な取組みの中間整理案についてお尋ね致します。

先日我が会派の代表質問に対して、知事から、副首都・大阪の確立、発展に向けた戦略として、「機能面」「制度面」「経済成長面」の取組みについて年度末に向けて議論を深め、具体的な取組み方向を示していくと答弁いただいたが、その戦略の中で、私は特に「人材力」の部分に大変注目しております。

今回の中間整理案の経済成長面、「人材力」の取組みにおいては、大学や研究機関の強みを活かしながら多様な人材が活躍できる環境づくりなどが記載されております。その具体化には、高度人材の育成及び確保、世界的グローバル企業の大阪誘致、ビザ緩和、外国人の生活支援といった多種多様な取組みが必要となるが、これまで府庁横

断的に連携し取り組んできたとは言えないのが実情かと思えます。

「人材力」の取組みについて、年度末のとりまとめに向け、こうしたトータルな視点が特に重要になると思うが、今後どのように検討を進めるのか。知事にお伺い致します。

〈 知事 答弁 〉

世界の主要都市の間で人材獲得競争が激化する中、大阪が副首都として発展を遂げるためには、成長を支える多様な人材の育成や呼び込みを図ることが不可欠と認識しております。

そのため、今回の中間整理案では、大阪の人材力強化に向けて、「内外から多様なプレーヤーが集い、活躍する場の創出」に重点的に取り組むこととしたところです。

具体的には、公立大学の機能強化等により大阪の人材育成力に磨きをかけるとともに、特区の活用等によりビジネスしやすい環境を整えるなど、あらゆる人材がチャレンジできる街として世界から認められるような取組みを検討してまいりたい。

人材力の強化に向けては、教育・雇用・産業・国際化など幅広い取組みを進める必要があるため、今後、年度末のとりまとめに向け、総合的な観点から検討を深めてまいりたいと考えております。

〈 杉江 議員 〉

「人材力」の取組については、副首都・大阪が、まさしく「アジアの主要都市」として、世界的な人材獲得競争に勝ち抜けるように、さらなる検討を期待致します。

年度末のとりまとめに向けて、より中身の具体化を図り、府民特に若い世代に、大阪・日本の将来に大きな期待を感じさせられるものにして頂きたいので、よろしくお願い致します。

今回の副首都の検討が、一步一步自らの土台を固めながら、着実に副首都の確立、発展につながるよう万全を期してほしいと思えます。

私も継続的に人材面での取組はじめ、適宜状況をウオッチし、必要なフォローをしていきたいと思っているので、くれぐれもその点、お願いしておきます。



2 千里ニュータウンの再生

〈 杉江 議員 〉

次に、千里ニュータウンの再生についてお伺い致します。

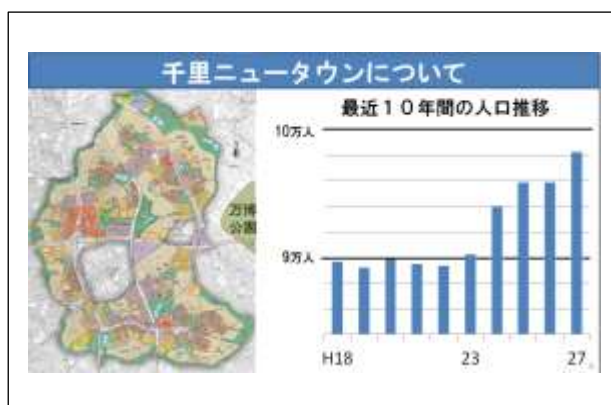
千里ニュータウンは、半世紀前、「日本最初の本格的なニュータウン」として開発され、大阪都市部の人口流入を受けとめ、高度経済成長期を支え、70年大阪万博とともに国民に夢と希望を与えるものでありました。高度経済成長期の大阪都市部の人口急増を支えた側面に加え、日本で最初の本格的ニュータウンとして、緑空間の配置、歩車分離、囲み型配置等、都市工学的にも先進的な多くの試みが取り入れられ、現在においても非常に価値の高い有意義な都市空間が形成されています。

しかし近年は、少子・高齢化や人口減少、施設の老朽化、生活スタイルの変化に伴う商業施設の衰退など、新たな課題も発生してきた。このため、平成19年、大阪府や地元市など関係者で「千里ニュータウン再生指針」を策定し、公的賃貸住宅の建替えをはじめ、様々な取り組みが進められてきた。その成果もあり、平成23年から人口は増加に転じるとともに、多様なNPO活動など地域の活性化も図られており、再生指針に基づく取り組みは一定評価できるものと考えております。

しかしながら、本日の新聞報道にもあったように人口増加の影響を受け、待機児童の早期解消等が課題となっており、地元市は責任を持ってこのような地域課題を解決することが必要であるが、府としても全面的に協力をお願い致します。

千里ニュータウンは、今回提案された「グランドデザイン・大阪都市圏」にも取り上げられているが、これからも、千里ニュータウンの人口を増やし、また、都市の利便性などさらなる魅力の向上を目指していくためには、千里ニュータウンから北大阪全体への市街地の広がりや北大阪急行の延伸などを踏まえた、広域的な視点に立った取り組みを行うことも新たな課題ではないかと考えられます。

来年度は再生指針策定から節目の10年を迎えることもあり、千里ニュータウンが持続発展していくため、新たな方向性を示す時期と考えるが、住宅まちづくり部長にお伺い致します。



〈 住宅まちづくり部長 答弁 〉

千里ニュータウンは、高度経済成長期にありながらも、車を排除し、「歩いて暮らせる」まちづくりという新たなライフスタイルを提供する先駆的な役割を果たしたまちである。「グランドデザイン・大阪都市圏」の中でも、ライフデザインに応じた多様な居住環境を創造するストック・ポテンシャルを持つまちとして、位置付けたところで

す。今後は、さらなる定住人口の増加を目指すため、北千里や千里中央など地区センターの機能強化や、ニュータウンの豊富なみどりや緑道などを活用した周辺地域とのネットワーク化、さらには、新名神高速道路や北大阪急行の延伸といった周辺環境の変化に対応した様々な課題に取り組む必要があります。

このため、人を惹きつける新たな都市魅力を創造し、多様な人材が集積するまちとなり、東西二極の一極として発展する大阪を支えられるよう、大阪府と地元市など関係者とともに組織する千里ニュータウン再生連絡協議会において、今後10年で取り組むべき方向性を示す新しい指針を策定してまいります。

〈 杉江 議員 〉

新しい指針を策定されるとのことであるが、様々な課題解決と千里ニュータウンや周辺地域の発展につながるものとなるよう検討を深めていただきたい。

また、ニュータウンの当初のまちづくりの理念を象徴するようなものを何らかの形にして残していく工夫も人々の記憶に留める一つの手であり、これから取り込まれる「ランドデザイン・大阪都市圏」やこの千里ニュータウンの新しい指針において、将来像などで示していくことも重要であると考えられるので、よろしくお願い致します。

3 一級河川上の川周辺のまちづくり

〈 杉江 議員 〉

次に、一級河川上の川周辺のまちづくりについてお尋ね致します。

上の川は、吹田市千里山地域から始まり、阪急関大前を流れ阪急豊津駅下流で糸田川と合流するまでの延長1.8kmの典型的な都市型河川です。平成25年8月25日の降雨により、阪急関大前駅の商店街付近にて18戸の浸水被害が発生しました。このとき、2度雨のピークがあり、上流部にある調節池も排水が追い付かず浸水被害が発生した。この災害への対応については、平成26年9月の都市住宅常任委員会でも質疑させて頂き、上の川調節池の貯留水の排出能力を向上することにより、調節池を有効に活用し対応していくとの答弁を頂きました。この工事は本年度末に完成すると聞いているが、昨今予測し難い雨の降り方が頻発しており、早期の抜本対策をお願いしたいと思っております。私は一番の解決策は、両側の斜面から出てくる雨水排水の出口を変えることによりピークカットを図ることだと思う。また、阪急関大前駅周辺では、この外にも、府道吹田箕面線の歩行空間の確保、阪急関大前駅ホームの混雑解消など、様々な地域課題があり、いずれも個別で解決するには難しく、これらの解決には、関係者が一体で取り組むべきことが重要であると考えております。

そのような中、平成27年9月、関西大学創立130周年を記念した「関西大学レジリエンスキャンパス構想」の検討を契機として、関西大学千里山キャンパスとその周辺の地域資源を活かした、災害に強い安全なまちづくりの推進を目的に、吹田市、府、阪急電鉄、関西大学が協力し、地域課題の解決を目指す4者勉強会が設置されたと伺っております。この4者勉強会は、様々な地域課題に対し、その解決策について話し合う場であると聞いており、このような場を通じて、先の課題について一体的に取り組んでいくべきと考えるが都市整備部長の考えをお伺い致します。

また、上の川下流の阪急豊津駅付近にも河川沿いの府道に歩道が無い区間があり、永年の懸案となっていることから、このエリアについても一体で取り組んでほしいと考えますが、併せてお尋ね致します。



〈都市整備部長 答弁〉

4者勉強会では、平成28年3月に「関西大学周辺まちづくりに関する包括連携協定」を締結し、関係者が相互に連携協力して阪急関大前駅周辺の諸課題の解決に取り組むことを、改めて確認したところです。

現在、上の川の治水対策については、大学内の体育館地下を活用した貯留施設の整備や河川への負担を軽減する雨水排水経路の見直し、また、河川に隣接する府道吹田箕面線の歩行空間の確保や阪急関大前駅ホームの混雑緩和策については、河川整備と併せた歩道及び、駅ホーム拡幅の一体整備など、より効率的・効果的な手法を検討しております。

今年度は、まず、河川整備と一体となった歩行空間の確保に関する方針を取りまとめ、引き続き、議論を深め、その他の課題も含めた一体的な取組内容を、平成29年度末を目途に、4者勉強会で取りまとめてまいります。

なお、議員お示しの、府道吹田箕面線の阪急豊津駅付近の区間についても、4者勉強会の場を通じ取りまとめられる整備手法を参考にしながら、河川整備と一体となった歩行空間の確保について検討を行ってまいります。

〈杉江 議員〉

浸水被害から3年が経過していますが、関係者一丸となり手法の取りまとめから実現に向け、地域の声にも耳を傾けながらスピード感をもって取り組んで頂くことをお願い致します。

河川整備と歩行空間の整備に関しては今年度方針を取りまとめ、その他一体的な取組内容も平成29年度末目途に取りまとめられるとのことで、実現可能性の高い取りまとめを大いに期待する。阪急豊津駅付近についても、上流の整備手法を参考に検討を行っていくとのことで、上流部と比較して河川の容量的にも余裕があり、河川・道路・鉄道事業者が一体となり、安全な地域づくりを実現していただくようお願い致します。

4 都市計画道路十三高槻線の早期全線開通【要望】

〈杉江 議員〉

次に、一点、地元の道路整備について要望させていただきます。

地元吹田市の南部地域で、現在、都市計画道路十三高槻線（正雀工区）において、事業認可期限の平成31年度末の完成に向けて、鋭意整備を進めて頂いています。

現在、最終の用地買収に向け精力的に交渉頂いていると伺っているが、平成31年度末の供用を実現するには、次の段階に進んでいくべき時期だと考えております。

本道路は北大阪地域の主要幹線道路であり、来年冬には日本最大級の物流施設が完成し、地域の雇用を生み出す点では大変歓迎するものであるが、一方で工事車両等により現在でも周辺交通量が多くなっている状況であり、開業後の関連車両をはじめ、更なる交通量の増加により、周辺道路の混雑も想定されるため、渋滞緩和や歩行者等の安全確保の観点から、一日も早く道路を完成して頂くよう要望しておきます。

併せて、正雀工区南側の末広工区においても、大部分が小・中学校の通学路となっているが、歩道が未整備の区間が多く、正雀工区の完成前には必ず歩道空間を確保頂くようお願い致します。

もうこれ以上、事業期間を延長することなく全線開通を実現頂くことを要望させていただきます。



5 府営公園の指定管理と万博記念公園の活性化等 〈杉江 議員〉

次に、府営公園の指定管理についてお尋ね致します。府営公園では、指定管理者制度を導入して10年余り経過し、サービス向上や経費の削減等に一定の効果を上げてきたと考えております。

しかし、先日も服部緑地に伺いましたが、利便性向上や公園の魅力づくりや賑わい創出の面で、民間事業者の持つノウハウが十分活かされていないのではないかと感じました。

指定管理者制度は、本来、民間の知恵を活用した魅力ある運営が重要であるが、これまでの制度運用においては、公園の魅力づくりや賑わい創出のアイデアを引き出す方策が十分ではなかったのではないかと考えております。

府営公園をさらに魅力あるものにするためには、指定管理者制度の効果が最大限に発現されるよう制度運用するなど、より一層、民間の知恵を活かした取り組みが必要と考えますが、都市整備部長の所見をお伺いします。

〈都市整備部長 答弁〉

府営公園における民間活力導入の取り組みについてお答えします。

府営公園においては、指定管理者制度導入以降、経費の削減が大幅に進むとともに、民の視点による、野外映画祭や夜間ライトアップなどの利用促進の取り組みにより、来園者数も増加しております。

しかしながら、さらなる公園の魅力づくりには、より一層の取り組みが必要と考えており、今議会で提案している、9つの府営公園での指定管理者の選定にあたっては、公園の活性化や利用者サービスの向上を図るため、これまでにはなかった「賑わい創出につながる収益事業の提案」を新たに評価項目に加えたところです。

その結果、昆虫館の有料講座プログラムや、森の中のベーカリーカフェ、デイキャンプエリアの設置など、9公園全てにおいて、公園の特徴に応じた提案が積極的になされたところであり、今年度末募集開始予定の服部緑地を含む残る9公園も、同様の提案を求めています。

さらに、今年度より、カフェやコンビニなどの公園施設を民間が設置・管理できる

設置管理許可制度を活用し、府民ニーズや民間意欲を踏まえた事業者公募を進めて行く予定です。

指定管理者の提案を着実に実施するとともに、設置管理許可制度も活用し、引き続き、民間による魅力ある取組みを促進する制度の運用に取り組んでまいります。

〈 杉江 議員 〉

新たな取組に期待致します。今回 9 公園の指定管理者の指定の件が提案されているが、内 6 公園が一者入札となっており、競争性が低くなっている。より多くの民間事業者が参入したくなる環境づくりが必要と思うが、都市整備部長のお考えをお伺い致します。

〈 都市整備部長 答弁 〉

今回の公募に際しては、より広く周知するため、報道提供やホームページでの掲載だけでなく、公募前後の説明会の開催や、関連業界へのアナウンスなど、積極的な広報活動を行いました。

しかしながら、結果として一者応募が多かったことから、今年度末に予定している募集の際には、指定管理業務を民間のノウハウを活かすビジネスチャンスとして捉えていただくために、今回の新たな収益事業の提案事例を情報発信するなど、より多くの方に興味を持って応募していただけるよう取り組んでまいります。

〈 杉江 議員 〉

事前説明会の開催はいい取組だとおもうが、そこには 6 4 者参加があったと聞いています。その方々の多くがなぜ応募されないのかよくご検討頂きたい。

また毎年、利用者にアンケートを実施しているとのことであるが、年間 6 7 4 万人の利用者に対して、サンプル数 1 0 0 とのことでもう少し調査方法は工夫して頂きたいと思います。

〈 杉江 議員 〉

続いて、私の地元、吹田市にある万博記念公園への指定管理者制度の導入についてお尋ね致します。

大阪府では「大阪都市魅力創造戦略 2 0 2 0（案）」を取りまとめ、目指すべき都市像として「世界に誇れる自慢の都市」「安全で安心して楽しめる 2 4 時間おもてなし都市」「健康と生きがいを創出するスポーツに親しめる都市」などを掲げ、都心部における観光魅力のさらなる充実や府域全体での都市魅力向上策の展開、スポーツを活かした都市魅力の創出などの取組みを行っていくとのこと。

万博記念公園は、昨年オープンしたエキスポシティやガンバ大阪の本拠地である市立吹田サッカースタジアムをはじめ、こういった都市魅力の向上につながる要素が集積した公園であり、是非民間活力の導入によりこのポテンシャルを最大限に生かせるように工夫してほしい。

その際には是非次の点の改善・提案を求めて頂きたい。7 0 年大阪万博を知らない若い世代や外国人を呼び込む仕掛けや環境づくり、閑散期や平日、雨の日に人を呼び込むような方策、現在原則 9 : 0 0 - 1 7 : 0 0 となっている営業時間の改善、早朝や夜間の利用者の受け入れ、毎週水曜日の定休日の廃止、大学や企業等スポーツ合宿の誘致、テニスコートがある西側エリアや日本庭園のある北側エリアの活性化、毎年恒例となるような大型のスポーツや音楽イベントの開催などです。今年は 1 2 月にガン

大阪の新スタジアムで、クラブワールドカップ、来年元旦には天皇杯決勝が開催されるなど、スタジアムとの連携などを行うことで、さらに魅力が高まり、にぎわいが生まれると思う。また地元吹田市でも市民マラソンの実施を検討しており、健都や千里ニュータウンを走り抜け万博記念公園がゴールとなるような大阪マラソンに劣らぬ市民マラソンが実施できれば大阪の賑わいに大きく寄与できるかと思う。

また、新しい科学技術、例えば人工知能を活用したロボットによる園内案内、自動運転バスなどによる園内移動、お掃除ロボットによる園内清掃、ドローンによる園内警備、ビッグデータを活用した需要予測、このような未来公園という発想で、ここに行けば面白い、未来社会が体験できる取組にチャレンジすることで、外国人観光客始め、更なる公園の集客につながると思う。また健康医療の観点では、隣接している大阪大学とのコラボも考えられるのではないかと思います。

府では、この万博記念公園の管理に指定管理者制度を導入するとのことだが、どのような形で指定管理者制度を導入しようと考えているのか、府民文化部長にお伺いします。併せて、もう1点、モノレールの万博記念公園駅前の活性化について伺います。

公園の表玄関にあたる駅前周辺地区を活用することは、エリア全体の賑わいづくりの面でも、大きな起爆剤になると考えます。

昨年11月策定の「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン」によると、万博記念公園駅前周辺地区の事業者誘致を進めるとのことであるが、どのように誘致を進めていこうとしているのか、府民文化部長にお伺いします。



〈府民文化部長 答弁〉

万博記念公園の指定管理者制度導入については、集客や賑わい作り、来園者の満足度向上などが図れるよう、これまで以上に自由度が高いものとし、また、議員お示しのような民間事業者の柔軟な発想や多様なノウハウがより一層活用されるようにしていきたいと考えております。

そのため、カフェや売店、案内サイン等の設置・改修など、利便性や快適性向上のための投資を指定管理者自らが行なえるようにするとともに、指定管理期間を10年に設定し、長期・継続的に育てていくイベントなども実施できるようにしたところで

す。さらに、公園内外の連携についても積極的な展開を求め、エリア全体の活性化につなげてまいります。

また、万博記念公園の魅力創出については、「大阪都市魅力創造戦略2020(案)」の重点取組として、「世界第一級の文化・観光拠点形成・発信」に位置づけており、今般、公園のシンボルである太陽の塔について、48年ぶりの内部公開を目指して取り組んでいるところです。

今後とも、万博記念公園の持つ魅力を、より一層高めてまいります。

万博記念公園駅前周辺地区は、公園エリアの中で最も交通アクセスがよく、玄関口となる場所であり、その活性化を図ることは、万博記念公園エリア全体の魅力向上に大きく寄与するものです。

今年度、エキスポシティや市立吹田サッカースタジアム開設後の道路状況や人の動きなどを踏まえながら、事業者誘致に向けた課題等の基礎条件の整理を行っているところです。

今後、それらを踏まえ、活用アイデアの公募などの事業者誘致に向けて取り組んでまいります。

〈 杉江 議員 〉

指定管理者の公募は来年夏頃と聞いているが、指定管理者の導入で、これまでなかった様々な新しい取組みや、一層の事業者間連携が進み、万博記念公園エリア全体の活性化につながるよう、制度設計でしっかりと工夫してほしい。

また、指定管理者の決定に際しては選定委員会を設けるとのことであるがその選定が非常に重要。さらに、指定管理の期間については、これまでより長い10年間に設定するとのことだが、期間中の業務内容や目標達成度について、しっかりと評価できる仕組み、評価できる人材を選定してほしい。

新たな賑わいが創出されるのは非常に良いことだが、一方で、土・日曜日に市立吹田サッカースタジアムで開催される試合と公園内の大型イベントが重なった場合などの公園外周道路での交通渋滞が発生している。公園管理者・交通管理者・道路管理者並びに園内事業者等が知恵を出し合い、協力して、渋滞が発生しないよう、これまで以上に努力してほしい。

ところで、万博記念公園の入場者数についてもう少し経営努力が必要かと。平成27年度で213万人。例えば、天王寺公園のてんしば平成26年10月からの半年間で209万人、大阪城公園は平成27年に230万人、府営公園の服部緑地は674万人、万博記念公園の規模及びその施設が有するポテンシャルからいうとまだまだ仕掛けが不十分と言わざるを得ない、2020年そして2025年に向けて万博記念公園の変化を期待して次の質問に移ります。

〈 杉江 議員 〉

先ほど太陽の塔の内部公開についてお話しがありました。

改修前最後の内覧会を今月29日に開催するとのこと、500人の定員に対して39,853通、約8万人の応募があったと伺っている。30日に800人追加で入れるとのことではありますが、もう少し府民ファーストの視点で、皆様のご期待に応えることができないのでしょうか。府民文化部長にお尋ね致します。



〈府民文化部長 答弁〉

太陽の塔の耐震改修及び内部公開は、重要な課題として、府としてこれまで、積極的に取り組んできたところであり、このたび工事着手の運びとなりました。

今般の工事着手前の内覧会については、府内外から約4万通にのぼるご応募をいただき、多くの方々に非常に高い関心を持っていただいたことに感謝しております。

こうした状況を踏まえ、内覧日を急遽1日追加し、当初予定が500名であったところ、1300名の方々にご覧いただけるように致しました。

今後、議員お示しの意見も踏まえ、たとえば工事期間中においても、工事前の塔内の様子や工事中の様子などが、ご覧いただけるよう工夫するなど、1年半後の公開に向けて、ストーリーを持った取組をおこない、多くの方々の太陽の塔に対する思いにできるだけ応えていきたいと考えております。

6 2025年万国博覧会の誘致

〈杉江 議員〉

最後に、25年万国博覧会の誘致についてお尋ね致します。先日の我が会派の代表質問において、知事から、2025年万博のテーマである「健康・長寿」は、先端医療だけではなく、ヘルスケア、スポーツ、食、エンターテインメント、さらにはAIやロボットなどものづくりに至るまで、極めてすそ野の広い分野への展開が可能という答弁がありました。

確かに、「健康・長寿」と聞くと、医療関連や健康食品など、どうしても健康医療分野主体の万博かと思いがちだが、「健康」には、笑うことや楽しむことなどによる心の健康や、スポーツによる健康・体力づくりなど、さまざまな可能性が秘められており、USJといったアミューズメント施設やスポーツ産業の集積に加え、食や笑いの文化を育んできた大阪にはぴったりの素晴らしいテーマであると思います。

中でも、私は、万博を契機にAIやIoTの分野において、大阪が我が国はもとより、世界の一大拠点になれないかと考えております。

例えば、万博までの9年間で、大阪の有するものづくり技術と大学を中心とした知の集積の融合により、AIやIoTの実証実験を、私の地元である万博記念公園や、大阪大学、国立循環器病センター、今後整備が予定されている健都などさまざまな場所や施設において実施し、そこで得られた成果を、万博を契機に世界に向けて発信する。

このことがまさに幅広い分野で興味を示す企業が増えるきっかけになり、さらには

大阪の経済成長の「鍵」となるものと考えます。

先日公表された府の基本構想素案をみると、テーマに関連する分野は広範多岐にわたっているとは書かれているが、AIやIoTをはじめとした技術革新をはじめ、スポーツ、食、環境など、大阪の強みを活かし企業の投資につながるような記述についても、健康医療分野と同じくさらに具体性を出すべきであると思います。

そこで、府の基本構想策定に向けて、「健康・長寿」をテーマとすることで、すそ野が広い展開が可能であり、誰もが参加したいと思えるような内容となるよう、さらなる工夫が必要と考えますが、政策企画部長の考えは如何でしょうか。

〈政策企画部長 答弁〉

議員より、2025大阪万博については、AIやIoTなどの技術を活かして、万博の魅力をさらに高めるべきとのご提言をいただきました。

万博のテーマである「健康・長寿」は、医療はもとより、スポーツ、食、エンターテインメント、笑いなど、極めて広いすそ野を有するとともに、ロボットや自動運転など、最先端の技術やモノづくりを活かして、会場のいたるところで未来技術の実証実験を行うことができるものと考えております。

このテーマのもと、今後到来する「人生90年時代」においても、健康でよりよい生活を送るためのアイデアや「知」を、さまざまな分野から集め、世界中の人々の健康とよりよい生活につながるような万博の実現をめざしたいと考えています。

議員のご提言なども踏まえ、誰もが参加意欲を高められ、魅力を感じていただけるように、府としての基本構想を充実させてまいります。

〈杉江 議員〉

ご清聴ありがとうございました。

